

# 鹿島

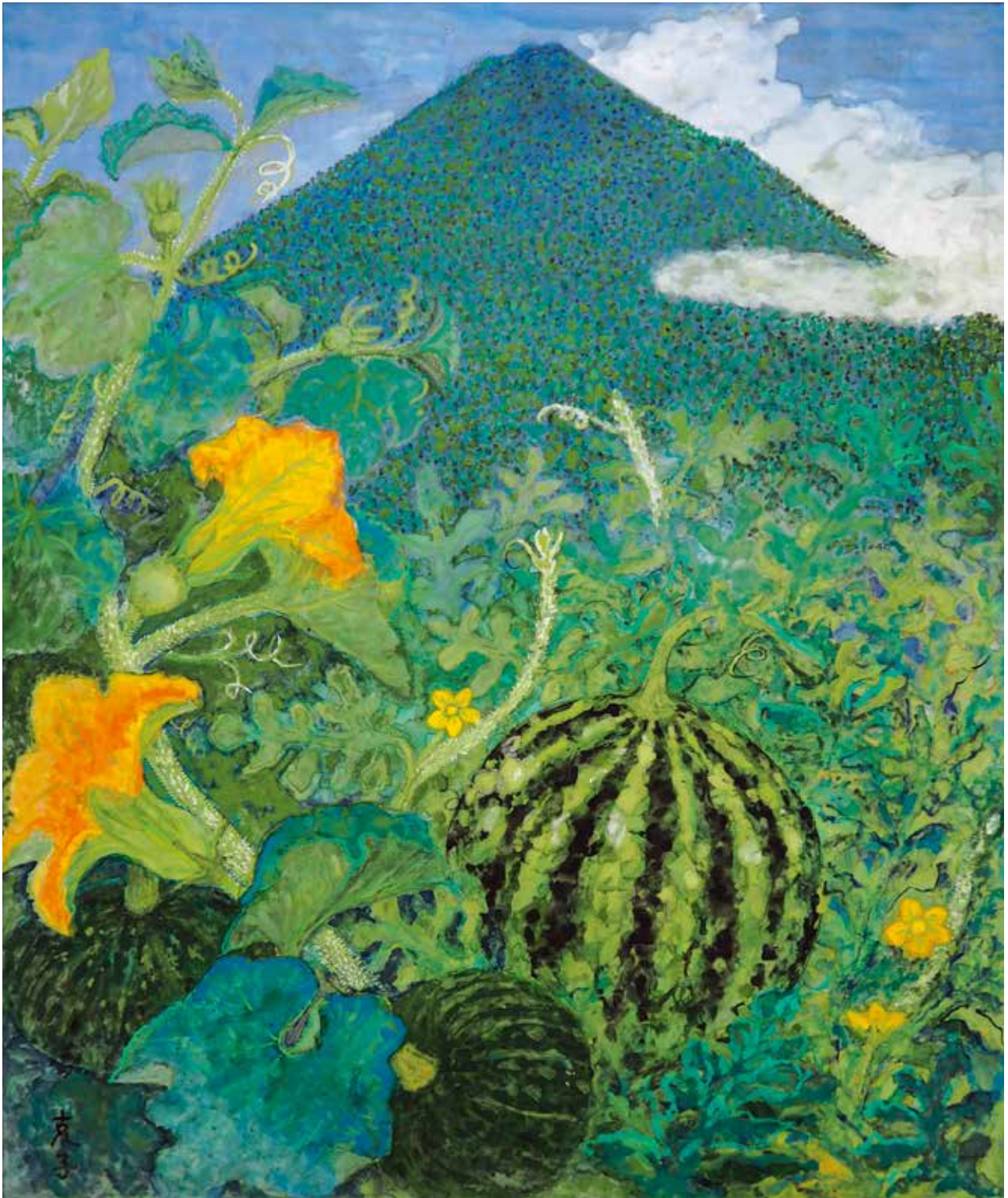
第 118 号

令和元年 10 月 1 日

鹿児島県文化協会

発行人 原口 泉  
鹿児島市山下町 5-3  
県文化センター内  
TEL 099-223-3123

## 50周年記念特集号



シルバー美術展 第30回記念大賞 迫田 克子

# 環太平洋の芸術文化

鹿児島県文化協会会長

原口 泉



去る9月1日に川内文化ホールにて、県民文化フェスタinほくさつ2019「フラの祭典」が開催されました。県民文化フェスタinほくさつ2019実行委員会をはじめ、フェスタ開催に当たりご尽力いただきました関係者の皆様に感謝申し上げます。

フラは、手や足、腰の動きで波や鳥、太陽などを表現するハワイの民族舞踊です。私が1964年と65年にハワイ大学に行った時には、フラで歓迎をしていたきました。歓迎の際も、見送りの際も踊っていただいたフラが今でも忘れられません。

フラは、元々、宗教儀式の一部であり、信仰の対象です。同じように、インドネシアのバリ島で行われる男性合唱のケチャは、呪術的な踊り(サンヒャン)にともなう舞踏劇で、信仰に基づくものです。フェスタではタヒチアンダンスもありました。奄美には、五穀豊穡を祈願する八月踊りがあります。徳島の阿波踊りも、八月踊り同様、お盆の時期に踊られます。

今年、『薩摩の武士が生きた町』武家屋敷群「麓」を歩くが、本県では初の日本遺産に認定されました。(鹿児島出水、垂水、薩摩川内、いちき串木野、南さつま、志布志、南九州、始良の計9市)日本遺産とは、地域の歴史的な魅力や特色を通じて文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定し、その文化財を総合的に活用する取組を支援することにより、地域の活性化・観光振興を図ることを目的としているものです。その構成資産である、太鼓踊りや土踊りは、薩摩武士の生活に根付いたものでした。今でも、県内各地で踊られています。

同じく、沖縄県の『琉球王国時代から連続と続く沖縄の伝統的な「琉球料理」と「泡盛」、そして「芸能」も今年認定されました。中国皇帝から派遣された冊封使節団をもてなす琉球料理や泡盛、宴を盛り上げる芸能は、今でも沖縄の方々の生活になくてはならないものです。今年度の九州沖縄文化団体連絡会議は7月に沖縄県で開催されました。私も琉球舞踊と組踊の視察に行ってきましたが、華やかな衣装でおこなわれる琉球舞踊は圧巻でした。本来は男性のみでおこなわれる踊りでしたが、今では女性の舞踊家も多くいらっしゃいました。

鹿児島県文化協会には、日本舞踊やバレエ、能楽などの舞踊に関する団体も多く加盟していただいています。伝統的な踊りから現代的なダンスまで、これから益々鹿児島県の舞踊文化が発展していくことを願っております。

フラは、心の言葉であり、ハワイアンは、鼓動である。

フラは、心の言葉であり、ハワイアンは、鼓動である。

2019 県民文化フェスタ in ほくさつ フラの祭典

2019.9.1.sun 12:30 入場料 1,000円

川内文化ホール 13:00

鹿児島県薩摩川内市若松町3-10 TEL.0996-22-5211

鹿児島県文化協会創立50周年記念 県民文化フェスタ in かごしま 2019

場所 宝山ホール 鹿児島市山下町5-3

総合舞台 芸能の祭典 展示部門

10/6(日) 開場 12:30 開演 13:00 ~ 入場料 1,000円

NHK鹿児島児童合唱団  
 女声合唱団 Prunus  
 コールあじさい  
 日高千代子バレエスタジオ  
 ムズイク・アイラ  
 シャンテ・ブリュー  
 鹿児島交響楽団  
 「鹿響ストリングス・カルテット」  
 鹿児島オペラ協会

10/5(土) - 10(木) 時間 10:00 ~ 17:00 入場料 無料

場所 アートギャラリー  
 10月10日は作品撤去のため16:30迄月曜は休館

始良市文化協会  
 鹿児島市芸術文化協会  
 一般社団法人表千家門会鹿児島支部  
 連句カメラ

「郷土芸能」  
 田之浦山宮神社神楽保存会  
 末吉鬼神太鼓保存会 末吉鬼神童

主催：鹿児島県文化協会 共催：鹿児島県、(公財)鹿児島県文化振興財団 協賛：(公財)九州文化協会  
 後援：鹿児島市教育委員会、南日本新聞社、朝日新聞社、南海日日新聞社、奄美新聞社、MBC南日本放送  
 NHK鹿児島放送局、KTS鹿児島テレビ、KKB鹿児島放送、KYT鹿児島発光テレビ、エフエム鹿児島  
 FMほくさつめんたい、東日本新聞社、朝日新聞社、南海日日新聞社、奄美新聞社、NHK鹿児島放送局、MBC南日本放送、KTS鹿児島テレビ、KKB鹿児島放送、KYT鹿児島発光テレビ、エフエム鹿児島

(お問い合わせ) 薩摩川内市文化協会事務局 TEL.090-8227-4736



事業部長 高風 勝治

今回の改選で鹿児島県文化協会の事業部長に就任させていただきます。微力ではありますが、

ですが精一杯努力したいと思います。

令和になり新たな気持ちで、県民文化フェスタの開催に取り組んでいるところです。9月1日の「県民文化フェスタinほくさつ2019」は、地元の実行委員会を中心に事業を進め、無事成功裏に終了することができました。皆様のご協力に心から感謝申し上げます。引き続き「県民文化フェスタinかごしま2019」では、実行委員長としても関わらせて戴くこととなります。事業を進めるに当たり、多くの課題が噴出して参りましたが、協会の各先生方のご協力で乗り越えて参りたいと思います。皆様のお力添えを宜しくお願い申し上げます。



広報部長 福園 力

この度、広報部長を仰せつかりました。今まで、機関誌の編集等は、経験がなく戸惑う

事ばかりですが、皆様方のお力を、頂き勤めさせて貰います。

誰もが関心を持ち、活動したい文化協

会になるように、努力したいと、考えております。どうぞよろしく願っています。

### 50周年記念シンポジウム

副会長 永山 作二

鹿児島県文化協会創立50周年を迎えるにあたり、県文化協会の歴史を振り返り、未来へいかに継承して行くか。県内各地区、各種文化団体の置かれている現況を把握し、未来に向けて夢のある鹿児島県文化協会として展望を拓いてゆく事を目的に、いくつかの記念事業を行った。その一環として令和元年度総会終了後シンポジウムを開催した。「鹿児島が世界に誇る自然と文化」と題し、原口泉会長の基調講演が行われた。コーディネーターとして、かごしま探検の会代表理事の東川隆太郎氏により司会進行された。

最初に基調講演として原口会長より、鹿児島県は屋久島が世界自然遺産に、明治日本の産業革命遺産が世界文化遺産に登録されている。甑島のトシドンはユネスコ無形文化遺産に登録されている。今後は奄美大島、徳之島が世界遺産に登録される事が目標である。南北600キロに渡る、鹿児島の黒潮文化について講演がなされた。

パネラー 永山霧島市文化協会会長は日本最初の国立公園を有する霧島市。豊かな

自然と文化に満ち溢れている。市町村合併等により都市集中化現象の中、高齢化等により文化の灯が消えつつある地域文化の継承保存に努めている。合併前の一市六町に各支部を設けた事が功を奏した。ともすれば消えがちな地域の文化守り育て、関係各機関との連携協力をいたしながら、文化祭等を開催し、地域文化の継承保存と活性化に取り組んでいると、発表した。山本前奄美市文化協会会長は奄美、沖縄が再度世界遺産登録に向けて推薦された事は、手つかずの自然、生活様式、大島紬、鳥唄、鳥言葉など全ての多様性である。「ありがとう」の言葉一つを取ってみても、五つの島で全く異なる。奄美の自然が日本画家田中一村の絵を開花させた。奄美パーク宮崎緑館長は世界への発信を操っている、と発表した。野口屋久島文化協会会長は平成元年五月東京より屋久島に移住し、平成十九年屋久島町文化協会会長を引き受けた。子育てや書道、硬筆の講師をしながら文化協会と共に歩んできた。今、屋久島の自然を満喫している。古き良き芸事からトルンドのダンスまで、昨今の会員の活躍からは目が離せない。古来より海路の灯台であった屋久島が、文化の道標となり、誰もが自由な表現活動を暮らしの中に活かせる「文化の母島」である事を願う、と発表した。その後質問等総合的な意見交換が行われた。



日程 2019年6月8日(土) 時間 開演：14:30より 料金 入場無料

場所 鹿児島市民文化ホール(4F 市民ホール)

# 鹿児島が世界に誇る

## 自然と文化

大島地区文化協会 山元 孝子



世界地図で見ますと一点でしかない奄美群島は、南北200km、5島から成り、海を隔て交通はままなりません、そのことがそれぞれの島独自の個性を培ってきたとも言えます。

奄美は、自然と文化の宝庫です。

1つ、食では、シマ豚、鶏飯、よもぎ餅、じょうひ餅、黒砂糖、田芋、喜界島のごま、など。

1つ、シマ唄では民謡日本一を5名輩出しました。

1つ、八月踊りと一集落一芸能。与論島十五夜踊り、加計呂麻諸鈍シバヤは国指定の無形文化財です。

1つ、大島紬は1800年余りの歴史があります。

1つ、小湊集落フワガネクは、6〜7世紀の飛鳥時代に道具を使い、夜光貝でさじなどの加工品を作り、百済を始めアジアへ輸出していた形跡があり、近く国の遺跡に指定されるようです。他にも伊

仙町のカムイ焼等々。枚挙にいとまがありません。

そして何と言っても奄美の大自然。その自然に育まれたアマミノクロウサギを始めとする希少動植物の面積比率は、ガラパゴス以上だと言われています。

奄美は今年、日本が推薦する最後の世界自然遺産登録候補に名乗りをあげる予定です。

日本で最初の国立公園「霧島」。日本で最初の世界自然遺産登録「屋久島」。それに奄美が最後の登録となりますと、鹿児島県にとってはまさに誇れるものとなります。

奄美市教育委員会も、新聞社沖縄タイムスとタイアップして「奄美ことも環境調査隊」を発足しました。

作家、島尾敏雄が足跡を残した奄美。また、日本画家、田中一村は、奄美で画風を昇華させたと言われています。

昨年、一村の日本画は「ジャポニズム、2018」の一環としてパリに渡り、ゴギャンと隣あわせて展示され、ロコミで1日2500名の来場者を呼び、芸術文化に秀でたフランス人を唸らせたようです。

奄美パーク宮崎緑館長は、一村と奄美をフランスだけでなく世界へ発信したいと、奄美文化協会の講演会で語っております。

昨年は、NHK大河ドラマ「西郷どん」

で、シマは沸きました。

沖永良部や龍郷町は、西郷ゆかりの土地でもあり、放送以前から関連事業は行われていましたが、龍郷町は西郷ゆかりの土地でもあり、放送以前から関連事業は行われていましたが、龍郷町の西郷菊次郎展は2018年4月〜2019年2月まで開かれ、大勢の来場者で盛況だったようです。関連シンポジウム、その他で原口先生も何度も奄美へ来島され、私たちも貴重な御講話を拝聴しました。

奄美文化協会は「西郷どん」の劇中歌の里アンナさん、前山真吾さんをゲストに迎え「ベルスーズ奄美2018」の演奏会を開催しました。「ベルスーズ」とはフランス語で「子守歌」の意味です。

作曲は、宇検村出身の元NHK交響楽団首席ファゴット奏者、山畑馨先生。ストラヴィンスキー来日の折、「演奏を称賛されたことが一生の宝物」とおっしゃる方です。指揮はヨーロッパで御活躍の奥村伸樹さん。「ベルスーズ奄美」を日本の名曲と絶賛され、外国に紹介したいと話しておられます。

鹿児島県初のプロコントラバス奏者、森田良平さんの計らいにより、全国各地から奄美ゆかりの50数名の演奏者をお招きし、合唱団は地元120名で立ち上げました。しかし、前回公演から18年が経ち、準備は大変でしたが、感動的なフィナーレを全員で体感することが出来まし

た。

尚、この行事には「明治維新150周年記念」の鹿児島県の助成を頂きました。知事を始め、原口先生、文化協会の皆様にはお世話になりました。ありがとうございます。

この先私たちは、シマで生まれた名曲を次の世代に「シマの文化遺産」として引き継いでいきたいと思っています。

手始めとして、再来年、山畑馨生誕100周年記念公演を予定しています。

国民文化祭も起点となり、徳之島には中学生、高校生による、ミュージカル「西郷どん」が生まれ沖縄公演も果たしました。沖永良部にも子どもミュージカルが誕生しました。

「古きを訪ね新しきを知る」  
変えてはならないシマの宝物は伝承しつつ、若い人たちが新しいことに挑戦する姿は頼もしい限りです。

奄美は75年前の敗戦後、アメリカの行政統治下にありました。  
歴史に残る苦しい無血抵抗運動を20万民族で成し遂げ、日本に復帰した経緯を私は忘れません。平和であればこそ文化を語れることを胸に刻み、願わくば、世界の人々が文化を語り結ばれることを願ってやみません。

ありがとうございます。

# 九州・沖縄文化団体連絡会議に参加して

鹿児島県文化協会副会長 川原 純子

去る七月二十五、二十六日に沖縄で開催された九州・沖縄文化団体連絡協議会に会長・事務局長と共に参加致しました。今回初参加でしたので、それぞれの県の文化団体から様々な実情を知る上で貴重な機会を頂いた事は本当に有難い事でした。

午後二時から始まった会議には各県より役員の方々が並ばれ緊張の面持ちで会長の挨拶に聞き入りました。出席者紹介を通して他県の多くが事務局を県庁内に置き県職員がその任に当たり行政がしっかりと関わって運営されている事、私共鹿児島協としては大変うらやましく思う事でした。

議題としては、会員に対しての還元の仕事や伝統芸能の維持及び継承対策、又運営方針等々につき各県の報告や協議がなされました。しかし各県の文化団体は、その設立の経緯も形態も、県の中での立ち位置もおのずと財政規模も異なっております。財政面では多い所で沖縄県は五千百万円、宮崎県四千八百万円、鹿児島協が一番少なく五百万円程度と違いがある事から、なかなか共通の問題としては捉えにくい感がありました。各県の実情がわかり大変有意義でありました。又

それぞれの県に於いて、その県ならではの特色を生かし、地域の感性に基づく文化をすくい上げ工夫しながら、文化の発展に寄与されている各県の取組には感銘を覚えました。夜の交流会ではそれらを受け、盛り上がった事は言うまでもありません。

二日目は沖縄が空手発祥の地である事から、沖縄空手会館を訪れて説明を受けた後、開催されていた世界空手選手権大会を見学し、デニー玉城知事ともお会いする機会を得ました。又十三世紀に造られ、後の王都首里へつながる国指定史跡、浦添城跡や十八世紀初め中国からの使者を歓待するために首里王府により創作された音楽、踊り、台詞で構成される沖縄独自の歌舞劇である「組踊」などを鑑賞させて頂きました。

今回の「九州・沖縄文化団体連絡協議会」開催に当たり、沖縄県文化協会の方々には細部にわたり温かい気配りでおもてなしを頂き、感謝すると共に四年後の当番県になる鹿児島協に思いを馳せながら機上の人となりました。

# 県民文化フェスタinほくさつ2019

## フラの祭典

フラの心身に纏ひたるダンサーは

ほくさつを舞ふいとたをやかに

薩摩川内市文化協会会長 瀬尾 和敬

県民文化フェスタinほくさつ2019は、9月1日、薩摩川内市川内文化ホールで開催され700名を超える観客が、フラの世界に酔いしれました。

主催者の県文化協会役員、フェスタを担当する北薩地区の出水市、阿久根市、さつま町、長島町、薩摩川内市（実行委

員長）の各文化協会長を中心とした実行委員会を延べ5回開催し、当日を迎えました。

また出演者会議も、5回開催、8月3日の舞台稽古、前日のリハーサルを経ての本番でしたが、出演者の皆さんの懸命な稽古の成果が十分に発揮され、とりわけ、川内S・Pの生演奏、フローレス・ヴォーチェのコーラスに合わせたフラには大きな拍手と歓声が上がりました。反省会は大いに盛り上がり、お互いを称え合いました。



### いちき串木野市文化協会



いちき串木野市文化協会では、去る二月二十四日(日)に、第八回音楽のつどいを開催しました。幼児から一般、高齢者まで音楽を中心に、幅広い年齢層の方々が一同に会し、様々な形で音楽を楽しむ、アットホームな催しです。今回は一部の団体が直前に出演できなくなるなどのトラブルもありましたが、出演者全体でカバーを行い、全員で作り上げていることを改めて実感しました。フィナーレで歌うハレルヤ合唱により会場は大いに盛り上がりました。

現代は物より心の豊かさを求める時代になっております。人々が美しい心を寄せ合う令和時代にふさわしい音楽のつどいにしていきたいと思っております。

## 燃える地域文化

徳之島町文化協会では、平成30年11月3日に、第39回徳之島町文化祭を徳之島町文化会館にて開催しました。

展示部門に11団体、舞台部門26団体 計37団体が参加しました。展示部門では、書道、絵画、パッチワーク、生け花などの団体の参加がありました。最近「展示部門の作品が少ない」との声もありましたが、今回は例年以上に多くの団体から出展希望があり、ロビーには多くの作品が展示され、来場者からもたいへん喜ばれました。

舞台部門では、ダンス、日舞、三味線、伝統芸能、ピアノ、合唱、島唄などの発表が行われ、徳之島町の文化活動の多様化が改めて示される形になります。

今年も、11月23日に町文化祭を計画しています。また、今年も40回の節目となる事から例年以上に文化祭を盛り上げていきたいと考えています。



展示部門 (中島書道教室)



MALAMA HULA STUDIO ダ・チャーム (フラダンス)



フィナーレ (徳之島闘牛太鼓)

### 徳之島町文化協会

### 和泊町文化協会

「劇団がじゅまる」

(正28名・賛6名)

「劇団がじゅまる」は、平成28年に世之主没後600年祭を記念して、座長をはじめ広く団員を募集し、若手のメンバーで再結成されました。歴史創作劇を通じて、町民・島民に島の歴史に触れ、親

しんでいただき島の息づかいを感じて伝えていくという目標があります。また、新しい文化の振興、発展にも積極的に取り組んでおり、昨年度は11月10日に「えらぶの西郷さん」と題して、初の自主公演を行い多くの観衆に感動を与えました。



歴史創作劇『えらぶの西郷さん』公演  
平成30年11月10日

自主公演では、劇に加えて沖水良部島での西郷隆盛の生活についての講演や、歴史創作劇の発表も行いました。多くの来場者から、西郷隆盛について詳しく分かりやすく学ぶことができたとの感想も多くいただきました。

今後、第2回公演開催に向けての練習に励むとともに、えらぶの方言の伝承に努め、新たな文化芸能等にも取り入れながら、町民・島民に愛され続ける「劇団がじゅまる」を目指してまいります。

(座長 大久保 駿)

## 燃える地域文化

令和元年は、薩摩の武将島津義弘没後400年の節目の年です。義弘は、吹上伊作城(亀丸城)で生誕し、幼少期を伊集院で過ごしたとされ、本市は、義弘ゆかりの地として知られます。現在でも「鹿児島の三大行事」の一つとして引き継がれている伊集院の「妙円寺詣り」は、関ヶ原の戦いで敵中突破を行った義弘らの苦難を偲んで始まったとされます。

この節目の年にあたり、本市では、商工観光課により「日置市観光PR武将隊プロジェクト」が立ちあがり、各種関連イベントが開催されます。このプロジェクトは、本市の観光振興や文化発信の一端を担っていくものでもあります。当連絡協議会も、今年度総会で、同プロジェクトについて研修を行いました。当協議会でも、文化祭等で日置市の歴史や文化の発信に努めていきたいと思えます。



### 日置市文化協会連絡協議会

### 南さつま市文化協会

本市は、統一されてはいないものの特色を持った文化祭が加世田・大浦・笠沙・坊津・金峰の旧市町で実施され、展示・芸能それぞれに加盟団体の他、子ども達や郷土芸能団体など多くの発表があり、多くの市民が訪れています。文化祭の他、年に5・6回の文化事業を実施しています。



選考・依頼、チケット販売、当日の運営まで市民に質の高い文化の提供を取り組んでいます。今年度も、歌謡ショー・人形劇・映画・演劇など多種多彩なプログラムを実施・計画しています。今後の課題として文化祭の統一の検討や、会員の高齢化などがあり、発表機会の拡充や高校生など若い人達と世代を越え繋がっていくかなど、きめ細かな取り組みが必要と考えています。



## 燃える地域文化

湯湾八月踊り保存会は集落の豊年祭で踊られる八月踊りが、高齢化等のため参加人数が少なくなるなど、活気がなくなりつつあったので、集落の大切で重要な伝統文化である八月踊りを保存、傳承していく目的で、平成二十一年に湯湾集落で結成されました。

主に、集落豊年祭の前後三ヶ月程度、週一回の練習を行うほか、豊年祭当日に踊られる八月踊りでは、中心になって参加しています。独自に八月踊りの歌詞集を作成し、多くの人達が気軽に参加できるようにし、若い世代や児童生徒など、「シマグチ」、「歌詞」がわからない世代も歌詞集を見ながら、踊りに参加できるようにしました。

今後の取り組みについては、現在の取り組みを継続して行っていくことや、村内外のイベント等に積極的に参加することで、伝統文化を発信していくこと。

様々な機会をとらえて、集落の文化を次の世代に繋いでいく活動も展開していきたいです。



### 宇検村文化協会・湯湾八月踊り保存会



### 第30回 いぶすきシルバー美術展の開催

令和元年八月四日から二〇日までの期間で、第30回いぶすきシルバー美術展が開催されました。県内の60歳以上の高齢者を対象とし平成二年度から始まった当美術展は、今年で三〇回の節目を迎えることができました。

記念大会では、昨年度を上回る一四〇人・一七六点の作品が出品され、その全てを会場に展示し、訪れた人々の心を魅了していました。

平均年齢76歳。三〇回連続出品者をはじめ、99歳の最高齢者の方々の力強く若々しい作品は、絵を描く楽しみを生き甲斐としていることが垣間見られるようでした。

また、今回は、市内の四幼稚園の園児たちの絵も一緒に展示し、三世代と一緒に展示会場を訪れてもらえるように企画しました。

開催中、お孫さんと手をつないだ出品者たちが笑顔で楽しそうに、それぞれの作品を指さしながら眺めている様子がうかがえました。

出品、ご来館、ご協力頂いた皆様方に感謝申し上げます。



シルバー美術展・鹿児島県文化協会賞  
前田 成孝



## 燃える地域文化

薩摩川内市教育委員会では、甌島の豊かな自然と風土を題材とした作品（写真・絵画・俳句・書道）を募集する公募展、「トンボロ芸術村コンテスト」を毎年開催しております。

題材となる甌島は、上甌島、中甌島、下甌島の三つの島から成る東シナ海に浮かぶ絶景の列島で、地形等の違いから、各島で四季折々の異なる表情を楽しむことができます。

毎年県内外から、甌島を表現した多種多様な作品が生まれています。中でも、俳句については、優れた作品の句碑を里町西の海岸の防波堤に設置しており、新たな観光資源として注目されています。

また、甌島の大自然や、歴史、文化を表現する作品創作活動の一環として、四つの部門の講座を、甌島の魅力を最も堪能できる夏に開催しています。

当コンテストは、令和二年度に第二十五回の節目の年を迎えます。そこで、これまでの優秀作品

を一堂に集めた記念作品展を計画していますので、甌島へぜひお越しください。



俳句の優秀作品句碑



俳句講座の様子



作品展の様子

# 文芸

## 連句

### 連句カメラリア

#### 「連句でむすぶ」

佛測 健悟

連句は句と句がつらなり、人と人がつらなる、紀貫之が言うところの「たけきもののふの心をもなぐさむる」和歌（にきうた）の一体です。連句を「俳諧の連歌」とも言うのは、連歌の伝統を経糸に、現代人の生活感や詩情を緯糸に織りなすうたという意味で、連句はつねに現代の詩として生き続けます。

鹿児島での連句の普及は、二〇十五年の第三十回国民文化祭、連句文芸祭の取り組みが大きなきっかけで、この前後から各地の連句人と県内の方々との連句交流が芽ばえ始めました。連句を国民文化祭のイベントの時だけの一過性のものとせず、そのあと色々なグループの中で連句活動が続けられていること、連句文芸に関わる郷里の者として楽しみに感じています。イッパイヤリながら連句が出来る知人友人が郷里にいるということは大いなる喜びです。鹿児島には「さつま狂句」の伝統があり、笑にくるんだ批評精神も旺盛で、連句を楽しむ素地十分と思っていますが、新しい連句の開花ということが次の課題ではないかと思えます。そのためにも、無理なく、生活の自然に根ざした、自在な連句の実践が求められるところです。

さて鹿児島連句グループの一つ「連句カメラリア」（世話人・本田好子）から以下のような連句作品を見

せて頂きました。居酒屋で巻いた連句とのことで、堅苦しくない連句を地元の方だけで実践出来ていることを羨ましく、心強く思いました。芭蕉の『行脚の掟』と言われる伝書に、「このんで酒を飲むべからず。饗応により固辞しがたくとも、微醺にして止むべし」とあり、酒の飲み方まで修行の一つということ、連句の遊びもなかなか奥が深いと言わざるを得ません。

#### 十二調「ブロンズの」の巻

ブロンズの獅子に纏わる揚羽かな

紅鯨

苦屋の庭に咲きし白百合

六寸

沖めざす舟に潮の寄り添うて

屯

寝ころんで見る島の星空

光子

試したき硝子の靴は箱の中

紅

静御前はひとり舞ひをり

屯

鳴り止まぬ拍手に乗せて木の実降る

光

デジャブのやうな今日の織月

寸

欧州のコイン立ちたる冬隣

紅

連句詠み合ふ春の宴に

光

花の門くぐれば日の輪かたぶきて

寸

子らのかけゆく野辺の麗らか

屯

令和元年五月二十六日 首尾

於鹿児島市西田町「水心居」

連句の形式は歌仙（三十六句）を基本としますが、時間の制約がある時はそれより短い半歌仙（十八句）、二十韻（二十句）、胡蝶（二十四句）、あるいはもっと短く表合十句、八句、六句といった形式を用います。カメラリア連句会の作品は十二調という自由な非懐紙形

式です。酒を飲み、よもやまの話をしながら、二時間かそこらでこうした連句を仕上げていくのは、大人の遊びとしても、これからもっと洗練させていけるジャンルではないかと思えます。勿論、酒がなくても連句は十分にハイになれる文芸です。一卷には春夏秋冬を織りませ、恋の句、時事句といった華やかな材料も詠まれます。この巻の第三、「沖めざす舟に潮の寄り添うて 屯」は、鹿児島島の俳人福永耕二の「浜木綿やひとり沖さす丸木舟」など想起させ、なつかしく、私も「ませてもらいたい」という思いを掻き立てられました。ご一座の六寸さんはMBCラジオの長寿番組「ぶにせんもえ」のコメンテーターの陶山賢治さんで、二〇一四年十二月に三回、連句について話をさせて頂きました。今、二ヶ月に一度新宿区高田馬場の「薩摩の里」でのイッパイ&連句を楽しんで下さり、寄って来る仲間も増え、「六寸会」という会まで出来てしまいました。九月には屯さんも鹿児島から上京し参加されます。連句の「むすぶ力」を感じます。無理せず、無理させず、それぞれの立場を大事に、連句の楽しみが広がることを願っています。

（季語研究会同人／町田在住）



詩

文芸誌「天秤宮」

白侘助

河野百合子

明け渡すと決めた窓ガラスに  
横なぐりの雨が降りたたく  
垂直に凍結した思い出を  
無言の部屋に響かせて

国見 黒尊 甫与志三山の連なる  
この土地に

義父が宮大工に頼んで建てた家  
自慢の床柱も 凝った欄間も

誰の手にも誰の目にも温められず  
幾年月

継ぎ足す言葉は花瓶の底  
寄り添う記憶は壁のシミ

明け渡すと決めた中庭に  
空き家にし続ける訳にいかない  
言い聞かせるように

一重咲きの  
白侘助



旅先にて

中村 保子

この街のビルは  
ひとつとして同じものがない  
まんまるのビルの上に

空を突き刺す尖塔が伸びる  
振れた高さ百メートルの  
きらきら光るビル

ビスイ色の三角錐の屋根  
泥岩を削ったギリシャ風の柱

イスラム寺院の屋根が  
黄金の輝きを川面に映す

いくつもの国の租界だった街に百年  
前もいまも

世界中から財を求めて人がくる  
飽きることのない欲望が

背広を着て闊歩している  
蠢く悪の渦をものともせず

ビルとビルの間を石畳の街角  
将棋盤を囲んで男たちが

ざわざわと日常を生きている

喧噪の街を列をなして観光客  
淡水パール最上級のシルクお茶

国を挙げて販売している

昔も今も富が右から左へと流れ  
六月の街はモンスーン真っ只中

短歌

大根占短歌同好会

錦江町文化協会

思ふがに行かぬものなり人の世とグラントゴルフの球の転がり

夕つ陽にあらたまり立つ鳥浜に跳ねて遊びいし砂浜を恋う

海面を朱色に染めて対岸の街をのむがに夕陽は沈む

日輪をかたどるマークに夕日受けサンフラワーは波の上行く

雨に濡れ色鮮やかに咲き乱る紫陽花ロードは梅雨の主人公

竹林を抜け通りくる夕風にちりりんりと風鈴鳴りぬ

バブル期を過ごせし滋賀へ思い馳す秋に出かける心の弾む

集まりて十人十色の短歌詠めば人生いろいろ私もいろいろ

初めての原宿若者人ばかり二度と来れない原宿の町

馬鈴薯の葉は青々と陽に弾け芋がまんまる太る音する

岬よりかすみはるかに見ゆる島基地になるらしおだやかな波

本堂の裏の桃の木ウグイスのケキョケキョケキョを隠れて聞きぬ

何くれと世話してくれる教え子さん私も病人あなたも病人

池田 行徳

徳留 民子

うるし山スナ子

山本アツ子

加治木 優

宮園美智代

馬込由美子

平石 恵子

内村 末子

川越 裕子

小牧 直子

清藤 照子

久保 文子

俳句

大隅やまなみ俳句会 鹿屋市文化協会

(七月吟行句他)

朝顔を数えてけふのはじまりぬ 瀬戸 清子  
 短夜の夢の不思議を掻き集め 和田 洋文  
 七月や車窓に仰ぐ崩崖のあと 大岳 麗子  
 滝しぶきあびて涼しき刻きざむ 中原 律子  
 轟は滝への力杖を曳く 池江 和  
 大滝の音もララバイ嬰眠る 岩元 楊子  
 車椅子押す子の額に滲む汗 安庭 幸  
 あめんぼう影に存在感のあり 川崎 健一  
 万緑の天神巡り海風る 福沢 霧子  
 夏落葉色を愛でては拾ひけり 蔵屋 きり  
 葱坊主スクラム組んで楽しげに 安藤 瑞子  
 曇り日も雨の日もよし睡蓮花 中園美智代  
 滝虹の微かな色の生まれけり

湖照やゆれつ光りつ夏落葉

垣内 静香

加藤エミ子

山里の空の碧さよ梅雨あがる

永吉 朝子

水平線より顔出さむ雲の峰

永吉 一步

振花や身の丈ほどの風そよぐ

新南風(あらばえ)俳句会

奄美市名瀬文化協会

夏暖簾

榊 秀樹

掛けてより風の新たな夏暖簾

森 美佐子

海風が押して入りくる夏のれん

恵 ひろと

女一人意地を通して麻暖簾

庵崎 京子

夏暖簾路地は昭和の佇ひ

登山 磯乃

太文字の「ゆ」を分け入れている夏のれん

窪田 セツ

夏のれん心許せる人とゐて

竹田 史郎

水色の風を育て、夏のれん

雑詠

全身で乳吸う赤子玉の汗

作田セツヨ

大西日同じ話を二度三度

重武 妙

浜木綿や姉はいつしか母代わり

金井由美子

挽きたてのトマトは野生の香を放つ

中吉 頼子

月下美人匂ひて闇の垣根越し

川田 清子

囀りがさえずり呼んで森の朝

緑沢 克彦

薩摩郷句

渋柿会鹿屋支部

鹿屋市文化協会

狭め座敷まこて喧し子分限者 有川 南北(汪)

議は言どんギツタ鞠似た可愛か孫 西浦 大器(第記)

九十じゃが五年物ぬ買った新け日記 中村 白浪(辰郎)

大事なこつメモした事ばけ忘れつ 永田 紀子

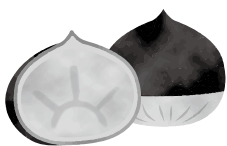
男所帯衣装ん修理や吹げ繕せ 倉 美和子

頑固て頭どげんもでけん家ん亭主 太田 太陽(陽子)

梅ちぎいはしと叩けち婆ん下知つ 中野 検索(健作)

女友達無尽講い集まつ夜が明けつ 福島 篤丸(篤紀)

賑ん出た頃にやそろいと下戸あ出つ 福園 放電(力)



# 賛助会員募集



県文化協会の活動・事業を支援していただくため、「賛助会員」制度を設けています。

賛助会員は、本会の事業にご参加いただくほか、機関誌「文化かごしま」により文化情報をお伝えしています。詳細は事務局へ

## 《賛助会員》 9月20日現在

向井 俊夫  
 下鶴 隆央  
 堀之内 芳平  
 柳 誠子  
 酒匂 卓郎  
 松里 保廣  
 上山 貞茂  
 西村 協  
 鶴丸 明人  
 田畑 浩一郎

成尾 信春  
 池畑 憲一  
 鹿児島筑紫会  
 鹿児島県交響楽団 石井祥  
 詩吟朗詠錦城会鹿児島県本部  
 最勝寺 良寛  
 島本 保子  
 松清 秀一  
 吉井 浩一  
 迫口 幹子

八木 幸夫  
 前田 久恵  
 野元 誠二  
 本村 錦香  
 森山 陽子  
 平島 義仁  
 (順不同、敬称略)



時を経ても、続く価値を。  
**セキスイハイム**  
Unit Technology for the Future

ずっと  
**ハイム**で。

いままでにない屋根デザインと、住空間。

# SmartPowerStation GA

スマートパワーステーション GR

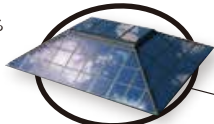


昼も夜も電気を自給自足する家へ。

## SMARTHEIM

我が家が“発電所”になる

**大容量  
ソーラー**



もしもの時に、電気を貯める

**蓄電池**



家じゅうの電力を見える化

**HEMS**

[スマートハイム・ナビ]



電気自動車連携システム

**VtoHeim**



家族の命を守るために、繰り返し地震が起こっても**倒壊しない強固な家づくり**が必要です。



**避難所での生活はこんなに大変**

- ・プライベートな空間がなく心が休まらない
- ・夜は消灯され防犯面も不安、空調も止まる
- ・配給、トイレ時は大行列に並ぶことに
- ・子どもや妊産婦、高齢者は過ごしにくい
- ・ペットを連れて行けない所や特別なルールがあることも

- 1 地震に耐える住宅であること** 地震に強い頑強な「ユニット構造体」
- 2 ライフラインを確保できること** 大容量ソーラーで、災害時も安心
- 3 昼夜を問わず安心安全に暮らせること** 夜間は昼に蓄えた電気をフル活用

南日本ハウジングプラザ  
**TEL.099-251-6816**  
鹿児島市与次郎1-9-38

KTS展示場  
**TEL.099-257-5815**  
鹿児島市与次郎2-4-43

MBC国分展示場  
**TEL.0995-45-4216**  
霧島市国分野口西9-38

川内展示場  
**TEL.0996-27-0587**  
薩摩川内市中郷1-10-16

宅地建物取引業者免許/国土交通大臣(3)7094号・建設業許可番号/国土交通大臣(特-27)第21314号(一社)九州不動産公正取引協議会加盟(公社)鹿児島県宅地建物取引業協会加盟  
**セキスイハイム九州株式会社 鹿児島支店** 〒890-0062 鹿児島市与次郎2丁目7-25 インフラテックビル2F TEL.099-256-8002  
営業時間/10:00~18:00(定休日:火・水曜) <https://www.heim-k.com/>